

第2次那須塩原市総合計画 第3回 審議会

開催年月日 : 令和3(2021)年11月16日(火)

開催時間 : 13時30分~15時45分

開催場所 : 那須塩原市図書館みるる 1階みるるホール

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	飯島 恵子	○	13	平井 正美	
2	市村 典子	○	14	鈴木 耕二	○
3	白居 芳美	○	15	深澤 桂一	○
4	高秀 正人	○	16	藤田 英之	○
5	大島 三千三	○	17	三浦 真紀	
6	岡田 誠司	○	18	三田 妃路佳	○
7	岡田 陽介	○	19	室越 礼一	
8	齋藤 優	○	20	山口 佳子	
9	佐藤 幹雄	○	21	山崎 和義	○
10	田中 志		22	山島 哲夫	○
11	田村 ひろみ		23	渡辺 将基	
12	橋本 秀晴	○			

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 報告事項 ①市民ワークショップ実施報告について

(資料1-1、1-2について事務局説明)

【会長】

御質問等あればお願いします。

【委員】

ワークショップは有意義な取組だったと思う。7本の柱の中で「3誰もが生き生きと暮らすために」というテーマに際しての意見が非常に少なくなっている。これは現行の総合計画の中では福祉が大勢を占めている部分になるが、その意見が非常に少ないということは参加された方の年代層が偏っていることも想定される。4ページの「政策形成プロセスの公正性・透明性」は担保できたのか、懸念がある。

もう1点、質問として、21ページの表の5番で「バラバラな自治会の運営が改善させる」という記述があるが、主催者側としてはこの意見をどのように理解・解釈しているのか、お聞かせ願いたい。

【事務局】

記載に誤植があり、「バラバラな自治会の運営を改善させる」という内容だと思うが、要するに自治会ごとに活動がまちまちだったりするので、そういったところを統一してほしいといった御意見だったと捉えている。

【委員】

自治会の運営がバラバラなのでそれを統一したほうがよいのではということか。

【事務局】

自治会によっては活動をやっているところ、やっていないところなど色々あるため、ある程度統一した活動をやっていた方がいいのではないかという御意見と理解している。

【委員】

連携しながら底上げしていったらいいのではということか。

【会長】

色々な人が発言したものをできるだけ拾って、ここではそういう意見があったとまとめている。

(1) 報告事項 ②基礎調査結果について

(資料2、3、4、5について事務局説明)

【会長】

資料は詳細に色々な観点から分析しているもので、今後の討議のときに使える資料だと思う。何か御質問があればお願いします。

【委員】

資料4の9ページ、労働力人口に占める、がどちらも65歳以上となっていますが、15歳の誤植だと思いますがいかがか。

【会長】

就業者数と労働力人口が両方とも65歳以上になっていると、1になるため誤植である。15歳以上の労働力人口が正しい。修正をお願いします。

【委員】

第2次那須塩原市総合計画のメインの柱である分散型地域という言葉について、分散型地域づくりというこの言葉は全国的に見てスタンダードになりつつあるのか、流行語大賞としてノミネートできるのか。と言うのは、今、旧塩原町、旧西那須野町という言葉が出たが、平成17年に市町が合併し、私を感じる限りではまだまだ融合が図れていない中で、分散型地域づくりという文言を聞いたときに直感的に「そうか、また分散するのか」という誤解を招く恐れがあるのではと気になっている。市民への説明をどのようにすればよいか。

【会長】

分散型というのは一つのテーマで、どういう意味の分散型かはまさにここで議論していく話である。全国的にいろいろな言葉を使っているが、ここでいう分散型とは昔のような別々にということではなく、色々な場所で分散して互いにつながっていくというようなことだと、前回議論があったと思う。そのあたりは今日の議論の中でもどういう話にするか、皆さんに検討いただくという審議だと思う。

【委員】

例えばデジタル・トランスフォーメーションと掛け合わせた分散型と言えば分かるが、居住地をそのまま分散するというイメージに捉えられるとますますしこりが広がるのではないかと心配したところ。

【会長】

全体で議論して、最終的にはどういう形にしていくのかということ議論してまとめていきたいと思う。今日は、市長がお見えになっていて、市長も各グループに参加していただいて議論を進めていきたいと考えている。

(2) 委員による意見交換について

(資料6について事務局説明)

(班ごとに意見交換)

【会長】

それでは班ごとに意見交換いただいた内容について発表していただきたいと思う。Aグループお願いします。

【Aグループ】

Aグループでは、自然の問題と安全安心、それから便利な公共交通について話し合いをし行った。

現状の良い点というところでは、やはり環境対策を行っていること、豊かな自然、再エネといったようなエネルギー利用をしているというところ、それから公共交通では太い、新幹線などが充実しているというところが良い点ではないかという意見が出た。

今後伸ばすべき点では、農産物等に付加価値等を付けて売っていくとか、自然環境も何らかの形で売りにしたらどうかといった意見が出た。林業はなり手不足が課題になっているが、その林業も生かして、発電に変えていくということでデメリットをプラスに変えていくという意見もあった。

あとは子育てに関しては、しやすいという意見も市民からの意見にもあったが、ただ、子育て一方の社会をつくるというのではなく、より多くの人が暮らしやすいまちづくりを考えていくというのも重要なのではないかという意見が出た。

那須塩原市の発信力、市長はすごくあるので十分かとは思いますが、そういった発信力といったところも高めていくべきだと、今後伸ばすべきところが出てきた。

現状の課題では、災害の問題に関して、消防団員が年々少なくなっており、どうやったら災害に対して担い手を確保できるかが課題になっているため、多くの人が参加しやすいような仕組みづくりが必要ということがあった。

あと、人口増加は難しい問題であるため、どうやって人を増やしていくかということで、外国人労働者の受け入れとか、今までと違う方向での人口を増やすことも重要なのではないかという課題というか、意見があった。さらに塩原地域では高校がないため、地域の人口が減っている原因になっているということも挙がっていた。

それから公共交通では、先ほど良い点で挙げた基幹部分の公共交通に対し、やはり地域レベルの公共交通はあまり充実していないため、そこを何とかしなければいけないということが話に出ていた。那須塩原は面積が大きいので、どうやって動きやすい地域にしていくのか、分散しているものをいかにつないでいくのが課題である。地域によっては栄えているところ、栄えていないところがあり、特に塩原地区はコロナの影響を受けているので、そこをどうやって盛り立てるのかも課題となる。

現在コロナで、本来は豊かな自然があるのですけれども、そこに来てもらえないという状況で、観光関係も、地域によっては苦しいところもあるという課題が挙がった。

その上での対策になるが、農産物に関してはブランド化、付加価値化していくということが重要なのではないかと考えている。有名なブランドがなく、個人的においしいと思う食べ物があまり東京では知られていないと思うので、もう少しブランド化が必要となる。

あとは、分散化社会という話が先ほど挙がったが、那須塩原の場合は分散化させていくというよりは、分散化しているものをどのようにしていくのか、どの地域にいても何とか幸せに暮らしていけるようにするにはそれをどうつないでいくのか、が重要になる。那須塩原市というひとくりにしないで、地域地域の特徴を考えた上で、先ほどの観光で苦しんでいる地域もあるなど、地域の特徴を踏まえてまちづくりをするということである。公共交通も電気自動車など、那須塩原市が力を入れている再エネとのつながりで何とかできるのか。できたらいいという意見も出たが、坂が多いとか、交通の問題もあるためもっと考えを深めていかなければならない、ということで、このグループの議論が終了した。以上です。

【会長】

それではBグループ。

【Bグループ】

Bグループでは、福祉、子育て、教育、魅力発信をテーマに話し合いをしたが、今ネット社会だからこそ、人と人とのつながりを深めることが重要だという意見が広がった。その中で、生まれ育ったこの那須塩原市という場所で関われる大人たちから何をしてもらったか、どんなことを経験させてもらったかということが、子どもが育っていく上でとても重要になってくる。

今、共英小学校で取り組まれている朝ご飯を子どもたちに支援するという朝カフェという活動を、もっほかの小学校にもどんどん広げていけたらということがテーマとなった。そのほか、高齢者と子どもたちの交流の機会を授業の中で取り組んだりするところもあるといいという話があった。

個人的な話になるが、那須塩原市に数年前に移住してきたが、自然が豊かなところとか、山がとても素敵に見えるところや、人の温かさに魅かれて移住してきた。現在、子育てをしているが、子育てという面でもとても育てやすい、と感じている。課題としては待機児童が多いと言われているところや、子どもの人数が多く施設が間に合っていないところなどがある。個人的に感じる点としては、子どもを公園に連れていく機会が多いが、公園におむつ替えの場所が一つもないところが多い。特に黒磯公園に行くと、おむつ替えのベッドもなければ、親が待っているスペースもないため、困ってしまったことがあった。そういった整備という部分でもう少し進むと、子育てがしやすく、若い世代がもっと那須塩原市に入ってくるのではないかという意見も出た。以上です。

【会長】

ではCグループ。

【Cグループ】

Cグループは地域の力と交流を生み出すために、まちの活力を高めるためにという課題で話し合った。その中で那須塩原市は自然が美しく首都圏からの交通の便がいい、JRの駅が3駅あるということで行き来がしやすい、と住みやすい環境が整っている。西那須野地区は新興地という形の住宅地がかなり増えているということは、そのおかげと感じている。それと酪農が盛んでカーボンニュートラルの取組もしやすい、歴史的建造物や図書館など、施設の活用がしやすいところがある。

市民の交流が盛んであり、人間性の素晴らしい人が多く、もともとが開拓のまちだったためウェル

カムの精神があり、隣近所でもすぐ仲良くなる地域力がある。それともう一つは、この地区は山や川がたくさんあるため、里山文化が盛んで小さいころから享受し、安心感のあるまちという話があった。

課題については、若干重複する部分もあるが、地域の交流がなかなか少ない。地域差があり、交流があるところとないところが分かれている。それに伴って地域の自治会の活性化もばらつきが見えるのではないか。それと、子どもたちが触れ合えるような、街なかの自然公園が少なく、子どもから高齢者まで集える場所が街なかにはない。それから公共施設の有効活用がまだまだできていないのではということもある。商工会からも言われたが、商店街の活性化では、駅前通りが夜7時を過ぎると真っ暗になってしまい、そのため人があまり歩いていない。たまに歩いているのは酔っ払いくらいという感じになっている。

それと企業に対しても、雇用を守れる産業の育成ということで、今市長が一生懸命頑張っているが、そういう形で雇用の増進を図るべきということ。駅前商店街、空き家あるいは空き店舗が、その子どもたちが後に入ってこないため、そこは税金の特区内にして税を安くすれば子どもが戻ってくるのではないかという話も出た。子ども世代の人たちが喜ぶまちづくりということで、地域の商店街との交流の場が少ないのでいろいろな形の商店をつくるべきである。市長から話が出たが、那須塩原駅前あたりも、日曜日などにマルシェを活用した、人が集える地域的な部分ができ、もう一つ、那須塩原の食のイメージを上げるべきじゃないかという話が出ていた。

また、那須塩原の駅前も庁舎移転を契機に、いろいろな形でまちをつくっていただければと思っている。環境に力を入れて、企業の誘致をして、那須塩原市を盛り上げていく。以上です。

【会長】

ありがとうございます。それでは市長がおられますので、御挨拶・感想をお願いします。

【市長】

いろいろな意見、ありがとうございます。私個人で今宿題を抱えていまして、那須塩原ライフ、那須塩原に住むとこういう生活ができるというPRが弱いと思っている。例えば鎌倉や軽井沢は、初めて来た人も駅前で降りれば、何となくこういうところで暮らしているとか、何となくのイメージが湧いてくる。那須塩原はすごく住みやすいが、駅前で降りても分からないため、そういったイメージ、那須塩原ライフというのをつくっていく。実際には那須塩原ライフはもうあるわけで、それを外向きにPRしていきたいと思っている。例えば、自然環境が豊か、温泉がある、それは当たり前だが、加えて、地域差はあるが那須塩原は非常にコミュニティがしっかり充実しており、運動会も老若男女が集まり、地域が助け合っている。ある地区は、1公民館で、自治会の人たちがやってくれているので、共助もすごくいい。自治会とかコミュニティとか、コミュニティ推進協議会をやりましょうとか、こういう話は今まで市内向けにしているが、それを外にもPRしていきたいと思っている。

また、先程、那須塩原の学びの場、教育機会を確保して誰でも受けられるようにするために、そういった地域の力を使おうと思っている。

あとは、例えば生ごみをコンポストでたい肥化していくことも、確かに東京の人からしたら考えられない話で、そういういいところを示していく。マルシェの話もあったが、例えば那須の人たちは土日に地場のおいしいものをマルシェで買って、おいしい野菜、おいしいチーズを食べられる。みんなは多分分かっているし当たり前の生活であるが、それをブラッシュアップして改めて外向けにもPRしてい

きたいと思っている。我々としては当たり前と思っていることが、実は他の地区から見たらかなり魅力的に見えたりする。

総合計画は行政の計画であるが、那須塩原ライフを打ち出して、外に PR していく。那須塩原ライフを支えているのが農産品であったり、あるいは環境施策だったり、DX もそう。要は広いけれどもデジタル化を進めることによって、非常時は公民館に行くことによって生き延びられる。生き延びられるということが実は今、大事なテーマだと思っている。最近地震が増えているし、こういうパンデミックもそうですし、海外情勢も今、不安定である。多分、今の若い人たちは将来どうなるか分からない不安の中に生きているということがあるが、那須塩原に行けば、例えば海がないから津波は起きないし、電力も自分たちで賄えるように工夫をしている。さらに地域新電力ができれば、電力代も域外に出ないで地域で回していけるので、今ガソリン等も高いが、将来的には電気自動車に乗ればいようにするなどできる。そのように、この地区で完結できることが、今後はより魅力的になってくると思う。

今までは東京のほうが便利ということがあったが、この地区に住んでいれば生き延びることができるというのは結構大事なことだと思っている。そういう、我々が当たり前は今享受している恩恵、これから目指そうとしているビジョンをしっかりと打ち出して、対内的にももちろん PR しなくてはいけないし、対外的にも PR しなればと思っている。こういう会議を通じて、皆様と色々な意見交換をしていければと思っている。今後ともよろしく申し上げます。

【会長】

3グループからいろいろお話しいただき、最後に市長が、那須塩原ライフということをおっしゃった。この那須塩原ライフというのは、全体でいろいろな意見が出てきた、結局、那須塩原の生活はこんな生活だということを、皆さんが語られていたと思う。今日の御意見も、一つの那須塩原ライフという形で全体にフォーカスしていけば、総合計画の考え方として、こういう生活が那須塩原ではできんだと、そのためにこういう選択をやっていくのだというようなまとめ方も、ちょっと難しいですがあるかもしれない。今日のせっかくの御意見ですから、そういう点も生かして、次につなげられたらと思う。

(3) その他

(会議日程等について事務局から連絡)

4 閉会